

縦横

太平洋戦争敗戦直後の1945年8月28日、連合軍先遣隊が東京に進駐して、本格的な戦後占領が開始された。この大事件を前にして、2週間前に就任したばかりの内閣総理大臣東久邇稔彦は記者会見を行った。

彼は、天皇の無謬性と「国体護持」の必要性を熱弁した後で戦争責任に触れ、次のように語ったという。「(こういう無謀な戦争をし、かつ敗れたことについて)この際私は軍官民、国民全体が徹底的に反省し、懺悔しなければならぬと思ふ。全国民総懺悔することがわが国再建の第一歩であり、わが国内団結の第一歩と信ずる」(朝日新聞縮刷版より抜粋)。後に「一億総懺悔」という流行語となった有名な一件だ。

これほどこの国の指導層の本音と本質を見事に表現した言葉は他に無い。あれほどの惨禍を招来しながら指導層がいささかも自己の責任を痛感しないばかりか、自らを含めて一億分の一に希釈してシラをきるのである。こういう指導層の無謬性もさりながら、さらに困ったことに、懺悔を呼びかけられた1億人の方も、1億分の1の懺悔をすればよいのだから気はいたって楽なのである。かくて、それから程なくして最高戦争責任者の一人で国際軍事法廷におけるA級戦犯を「民主的な選挙」のはてに内閣総理大臣に祀り上げてしまったのである。

その元内閣総理大臣から幼児教育を受け、この師が忌避してやまなかった「戦後レジーム」を破壊することを最重要政策にすえた孫が内閣総理大臣に就いた。まさに、歴史はめぐるのである。

天網恢恢、この孫が指導する政党は今参議院選挙で大惨敗した。しかし、彼の祖父がそうであったように、今のところ彼も引責辞任はしないと張り張っている。「教育の大切さ」とはかくのごときものである。

東久邇首相が一億総懺悔を語った前日、日本政府は東京大森に占領軍兵士を慰安するための売春窟「小町園」を開業させた。上記の孫は、「狭義の意味」で従軍慰安婦を政府が斡旋したことは無いと主張して、「小町園」のサービスを最も受けたはずの国の国会から謝罪決議を突きつけられている。まさに、歴史はめぐるのである。

